



外国出張報告書

平成 26 年 3 月 13 日

1. 出張国名 モザンビーク、マダガスカル
2. 出張月 平成 26 年 2 月～3 月
3. 出張目的 ナカラ回廊で実施する農家圃場試験における作物生育調査、
並びに現地カウンターパートへの調査法の指導業務：A
アフリカ稲作振興プロにおける施肥技術開発の展開に向けた情報収集：B
4. 成果の概要
A.
 - ナンプラ周辺 1 村落、グルエ周辺 2 村落、リシंगा周辺 1 村落の計 4 村落で実施する農家圃場試験において、①作物の生育調査、②土壌採取、③気象及び土壌水分データの収集を行った。
 - 採取した植物体及び土壌のサンプルについて、各養分分析に供試するため、輸入禁止品として JIRCAS に持ち帰った。
 - 上記活動を通して、各地点における IIAM（モザンビーク国立農業研究所）のカウンターパートに対して、実験機材の使用法ならびに調査法について指導した。B.
 - マダガスカル中央高地における CIRAD の陸稲プロジェクトサイトを訪問し、アフリカ稲生産圃場でのケイ酸欠乏に関する成果を紹介するとともに、彼らが行き組むいもち病の耕種的防除法の開発に関して情報交換を得た。
JICA 技プロ「マダガスカル中央高地コメ増産プロ」のサイトおよび FOFIFA（国立農村開発応用研究センター）を訪問して、マダガスカル稲作の現状に関する情報収集を行った。
アンバトビーニッケル鉱山の副産物として硫安が産出されており、アフリカ稲作振興Ⅲで行き組む硫黄欠乏に関わる効率的施肥技術の開発成果の応用が期待できる。